

教科	課題（現状、傾向、課題分析）	改善プラン（改善のための具体策や取組）	成果(○)と課題(△)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 目的意識をもって話したり、聴いたりするようになるなど対話を通して考えを広げることができた。 文章全体の構成を考えたり、事実と意見を区別して文章を書いたりすることを苦手とする児童がいる。 同音異義語を正確に漢字に表す力、敬語の理解度においては個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> パネルディスカッションを経験したことで、一つの課題に対して、様々な考えがあることを知ることができた。さらに意識や技能を高められるよう、情報を整理する力が付くように指導する。 目的や意図を明確にして、「考えと理由や事例」、「原因と結果」などのつながりを意識して書く活動を取り入れる。 多くの文章を読んで表現に触れ、漢字や言葉の使い方に対する理解を深め、話や文章の中で使えるようにする。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> 政治のしくみや市区町村の取組や歴史的事象に興味をもつ児童が見られる。 ノートに友達の意見や学んだ内容をメモし、学習を深める児童が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 政治や経済のタイムリーなニュースに触れることができるように、新聞や報道の内容を授業中にも取り上げ、興味をもてるようにする。 歴史に関しては、デジタル教科書のビデオ等の資料を多く提示することで、視覚的にも理解が深まる授業展開をする。 個人差があるので、ノートの取り方を示すことで意欲をもたせる。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> 問題や課題に対して自分の考えをもつ児童が多い。 既習の通分や約分に課題が見られる。 学習した内容を生活と関連付けて考えることが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> どんな計算方法や考え方があるのか、見通しを立てさせることで何を求めればよいのか明確にする。目的をはっきりさせ、自分で考える時間を設ける。考えたことを共有する機会や交流の場をつくり、考えを深められるようにする。 約分をせずに大きな数字のままになってしまう児童がいる。比を使った計算の際にも同様の課題が見られるため、けやきタイム等の時間に類題に取り組めるようにする。 導入で場面設定などを工夫する。また、計算の意味について考えることができるよう、題意を捉えられるような発問を行う。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活のことや実生活の経験から予想や考えをもつ児童が増えた。 実験をすることに対する意欲は高いが、予想や仮説をもって計画を立てることにばらつきがある。 常に目的意識をもって実験に臨んでいる児童が少なく、結果を考察する際に、解決すべき問題を振り 	<ul style="list-style-type: none"> 予想を立てる時に、日常生活の具体例などを提示し、児童の発言から考えを広げられるようにすることで学習と児童の経験を結び付けられるようにする。 図、式、言葉などを関係付けながら、自分の考えをノートに書いて表現できるよう指導する。 いろいろな方法や考え方で試行錯誤したそれぞれの考え 	

	<ul style="list-style-type: none"> 返る児童が乏しい。 実験の安全配慮面に関して意識が定着していない児童がいる。 	<p>のよさを価値付け、他の考えとの共通点や相違点をつなぐ補助発問を工夫する。</p>	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 丁寧な歌い方に響きが増している。どの音域でもその歌い方を続け、異なるパートがバランスよく重なり合いながら歌うことができるように学習を続ける必要がある。 合奏では自分のパートを集中して演奏することができる。パートごとの役割を理解して聴き合い、演奏に生かすことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 音域が低いと響きが少なくなりやすいため、いつも柔らかい響きを意識できるように伴奏の弾き方や声かけを工夫する。聴き合うことができていると歌声が丁寧で柔らかくなるため、今後も歌った後の振り返りや価値付けを充実していく。 旋律と伴奏を合わせた心地よさを感じられているため、今後はより多くの音の重なりを聴いたり感じ取ったりできる学習の充実を図る。 	
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 児童同士の交流を通し、制作活動に取り組んでいる。 作品制作の進捗差が大きくなっている。 自分の感覚や想像力を通して考え、表現することが少ない。 キャラクターなどの既存作品の模倣になってしまうことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達の作品のよさを見付けたり、作品紹介をしたりと児童との交流を深めながら制作活動に親しむ。 完成までの時間を具体的に示して見通しをもたせることで、制作期間内に作品を仕上げられるようにする。 すぐにタブレットで参考画像を検索するのではなく、過去の経験や思い出を基にして表現するように指導する。 著作権などの知識を学習することで、オリジナリティを意識して表現できるようにする。 	
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 調べ学習ではタブレットを効果的に活用し、既習した内容を生かしながらまとめている。一方で、考えがまとまらずに時間がかかってしまう児童も多い。また、他の児童のパワーポイントの改善点をうまく伝えられない場面があった。 実習では必要な持ち物を揃っていないことがある。また忘れた際に指導者に伝えずに、児童同士で貸し借りをしてしまうことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 調べ学習では一人一人の進度を確認しながら、各時間の目標を明確に伝えて残り時間を意識させる。 相手意識を持ちながら感想を伝える活動を繰り返し行う。 実習の持ち物等は学年だよりに記載するなど、家庭と連携しながら学習を行い、児童同士での貸し借りをしないことを指導する。 2学期以降はミシンの学習や調理実習を行うため、周囲の児童の動きも確認させ、安全に十分に気を付けるよう指導する。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> 一人で学ぶではなく、集団で学ぼうとする姿が多く見られた。 体幹が弱く、自分の身体を支えることや身体全体を使って表現することが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童同士で教え合う、伝え合う姿が見られた時は価値付け、互いを高めることのよさを実感させ学びを深められる環境を整える。 身体づくりや表現運動を積極的に取り入れ児童が親しみをもてるよう、音楽に合わせて踊ったり、グループごとに創作ダンスをしたり、友達の動きを模倣し合ったりするなど児童が楽しめる指導を行う。 	

外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことを「相手に伝えたい」と、意欲的に取り組む児童が多いが、苦手意識をもっている児童もいる。 ・概ねアルファベットの形を捉え、読み書きはできるが、小文字を書くことは課題がある児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語で話す、書く活動を通して「伝えたい」気持ちを深めるために、児童の良い点を褒め、伝えることの楽しさを実感できるような授業づくりをする。 ・英文を書く活動を通して、アルファベットを意識させ、文字を書く時のルールについても指導していく。 	
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・教材から考えたことを発言する児童が多く「自分だったらこのように行動する」など自分事として意欲的に取り組んでいる。 ・自分の経験を振り返る、自分の思いをワークシートにまとめることが難しい児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発言した児童だけでなく、全体に対しても問い掛けを行い児童同士でも考えを深められる場を設ける。 ・導入部分では、事前アンケートやこれまでの経験を振り返られる機会を意図的につくることで、自分事として教材を読み深められるようにしておく。 	
総合	<ul style="list-style-type: none"> ・調べるテーマに対して意欲的に調べすすんで取り組んでいる。 ・情報収集をする際にインターネットのみに頼ってしまい、調べて分かったことや考えたことを表現する力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分事として考えられるよう、他教科の学習内容と関連付けて調べられるテーマの提示を行う。 ・インターネットは情報収集の方法の一つであることを改めて指導する。そして、調べたことを基に、自分で考え他者に伝え合う場を設定し、友達とアドバイスし合う活動を取り入れて、表現する力を身に付けさせる。 	